

(学校運営協議会・報告様式)

令和7年度 第5回 桜島小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和8年1月22日(木) 16:00 ~ 16:25

2 場 所 家庭科室

3 あいさつ(委員長)

(1) 委員長より

本年もよろしくお願いします。今朝は雪が降ってたいへんだったと思うが、今はすっかり融けてしまって陰のところに少し残っている程度。下校中の児童が雪玉を作りながら帰っており、冷たそうだなと思いながらここへ来た。今日は保健の話も後半に聞けるということで、楽しみにしている。意見などあったら、遠慮なく話してほしい。以上。

4 協議内容

(1) 学校評価について

お集まりいただきありがとうございます。3学期になった。今年度最後までよろしくお願いします。

学校評価の時期になった。年度初めの段階でこのような項目で見て行っていただければとお願いさせていただいたものの年度末の振り返りという形になる。職員の方で成果と課題をいれさせてもらった。それに基づいて少し話をさせていただく。

・学力向上×ICT 活用

児童アンケートより「学校の勉強は楽しい」の項目について別紙に参考資料を載せる。この項目で否定的回答(あまり楽しくない、楽しくない)と答えたこどもが合わせて60人近くいる。全体の一割強のこどもは残念ながら「楽しくない」と思っていることがわかってきた。こどもたちが「勉強が楽しい」というのは、「勉強がわかる」なのかなと思っている。そう考えると、1・2年生では「わかる」と思いながら勉強してきたこどもたちも、3年生ぐらいになると、少しつまずきを感じる子たちも出てくる。また、不登校傾向の子が出てくるのもこの時期である。どうしてなのか。授業中困っていることが多いとか、落ち着かなくなってきたとかそのようなことが要因ではないかを感じる。中学年での学習指導を学校として考えていかなければならないと、このアンケートから反省をした。

ICT 活用、chromebook の活用について、こどもたちは大分馴染んできている。PCの良さは視覚的に学習できることや、つまずいてもその場でやり直しがきくこと、あるいは、自分で組み立てて何かを作っていけることだと思う。そういう良さを感じながらこど

もたちは学習に活用するようになってきていると思う。

・長期欠席対策

保護者アンケート「いじめのない楽しい学校づくりに努めている」の項目について。学校としては、100%いじめのない学校づくりに努めているが、約3%、10名程度の保護者の方が、否定的な回答となっている。学校としては、何かがあれば、きちんと組織的に対応し、それについて保護者さんと話をさせてもらって、連絡させてもらって、情報共有をさせてもらって、見守っていくという風にさせてもらっているつもりだが、まだ、この10名の方には不安を感じさせる部分があったと、反省したい。

長期欠席児童数のグラフを別紙につけた。左は、昨年と今年の欠席日数が10日を超えた児童の数のグラフ。右は欠席日数が30日を超えた児童の数のグラフ。理由にもよるが、統計的には年間30日を超えると「不登校」という捉えになってくる。昨年と比較すると、今年は10日以上欠席の児童の数も、30日以上欠席の児童の数も去年よりは減らすことができていていると思っている。その理由としては、保護者と丁寧に話をしてきたりとか、SCやSSWなどと繋いでいたりとか、さくらルームという、教室に入りにくい時に過ごすことができる部屋の充実を図っていたりなど様々な手立てが少しずつ減少に結びついてきているのではないかとと思っている。

「いじめなどで(学校に)来れない」というわけではなく、「集団に入りづらい」とか「集団にいることに不安を感じる」「家庭的に不安がある」などの原因の子が本校には多いため、何か手立てをしたら即効果があるとはいかないが、地道に様々な対策をしていくことが大事だと感じている。

・非認知能力育成

別紙を見てほしい。11月に行われた非認知能力についてのアンケートの結果を昨年度と比較したものだ。「平均値」というのは、「そう思う=4点」「どちらかというと思う=3点」「どちらかというと思わない=2点」「思わない=1点」という風に数値化して平均をだしたものである。数値が高いほど、こどもたちの非認知能力が高いという捉え方をしている。下の否定的回答割合は数値が低いほど良い。

そういう見方をすると、本校は「やりぬく力」と「自制心」と「自己肯定感」は昨年度よりよい傾向に変化したと捉えることができる。「社会性」については、平均値はよくなっているが、否定的回答は増えているため、今年の取組には課題があったのでは、と考える。その下に書いている「鈴鹿市の目標値」というのが、鈴鹿市として目指していく数値である。「やりぬく力」と「自制心」については、市の目標を本校は達成した。しかし、「自己肯定感」と「社会性」については、市の目標を達成できていない。

本校は4項目のうち、一番「自己肯定感」に課題があると思って今年取り組んできた。いろいろな先生たちの声掛けや声掛けのタイミングとかを工夫しながら取り組んできた。否定的回答は下がっているので、少しの効果はみられていると思う。「社会性」については、「善悪の判断」…、ここに具体的にどのようにこどもたちに問い、それを「社

会性」と捉えて数値化しているかを簡単に書いてある。「社会性」と捉えているのは、「友だちと互いに助け合いながら活動できるか」（助け合い）、「何が良くて何が悪いのかを判断することができるか」（善悪の判断）、「学校やクラスのルールやきまりを理解し、守ることができるか」（ルールやきまりを守る）「友だちが困っているときに、助けることができるか」（助ける）の4項目である。この4項目から社会性として判断されているが、約1割の子が「善悪の判断ができるとはいえない」と答えている。また、「ルールやきまりを守ることができる」と答えられなかった子が高い。この2つをどのように（肯定的回答を）高めていくかが課題である。

・地域連携

今年度、地域連携として学校がしたかったこととして地域への愛着心を深めたいと思ってきた。「将来的にこの地域で暮らしたいな」と思う子や、違う地域に住むかもしれないが「その地域の役に立ちたいな」と思うような子を育てていくことを狙いとして取り組んできた。ここに1年生から6年生それぞれが取り組んだことを書かせていただいた。まず、地域を知ること、地域に親しみをもつことを狙いながら、地域の方にお世話になりながら進めている。また、今年もボランティアの方々がたくさん助けていただいた。そうやって地域に助けてくださる方がいる、自分たちの生活が支えられているということを感じ、子どもたちは生活してきた1年だったと思う。

・学校における働き方改革

業務の方もどうしたら効率よく行えるか、どこで先生たちの時間に余裕を持たせることができるか、工夫をしながら行っているが、残念ながら12月末の時点で、時間外労働が360時間を超えた職員が5名いる。3月末までいったら、もっと増えてしまう…という状況になっている。そういう先生方とは、「働き方をどうしていくとよいか」「何に困っているのか」などの話をしながら進めていきたいと思っている。どこに時間がかかるのかと考える中の1つに今は、SNS とかゲームとかなどでのトラブル、下校後のトラブルなどがある。学校外のことだが、「学校業務ではない」とはなかなかいいづらいし、放っておくわけにもいかない。これらのトラブルに取り合っている時間は結構存在する。こういうことをどうすることができるか。悩ましいところである。

以上である。ここで話し合っておくと良いことがあれば、話し合っていて、あとは後日ご記入いただいて、書類の提出をお願いしたい。

協議（○：委員の発言 ●：学校側の発言）

○	時間外労働について。月30時間というのは、決まっているのか。
●	月45時間を超えないというのが決まりだ。トータルで360時間を超えないとなっているが、職員の中には、月45時間以内は意識しているが、トータル360時間以内までは、意識していない者もいる。

○	ずっと昔の話だが、学校の先生というと、60時間、70時間は残業していた。職員室の電気が赤々と付いている。中学校なんかは特にそうだった。「なぜですか」と聞いたら、やっぱり「時間が足りません」といっていた。失礼なことを承知で「処理能力がないのではないか」と問うと、「そんなことはありません」と言われた。
●	実質はもっと働いているが、取り決めは法律なので、「この部分は自己研鑽の研修」と捉えて、申請している職員がほとんどといってもいいぐらいだ。
○	地区によってだとは思うが、やはり先生の数足らないのか。鈴鹿はどうなのか。
●	先生の数足らないというか、産前休暇などや病気などで休まれたりする補充に付く人材ストックがなくて、休んだら、いなくなった人数のまま、なんとか頑張る状態になりつつある。

5 その他

・第6回学校運営協議会について

令和8年2月19日(木)16:00～

1 階 家庭科室

・令和7年度卒業証書授与式について

令和8年3月19日(水) 9:30開会

ぜひ、学校運営協議委員のみなさんに6年生の巣立ちを一緒に見守っていただけたらと思う。ご都合がございましたらご参列の方よろしく申し上げます。席の準備などがあるので、期日までに欠席を教えてください。